

国語

平成二十一年度 中学入学試験 問題用紙

□ 次の文章をよく読んで、あとの各問に答えなさい。

① 緒末・維新にはじまる日本の近代化は、お手本のある近代化であった。西洋文明をお手本として、できるだけ速くそれに追いつくことを基本方針とする近代化であった。

右大臣岩倉具視を全権大使として、政府首脳の大半が二年近くも欧米に視察旅行に出かける、といった計画が立案され、実行されたことに、お手本の a カチの大きさがなによりもよくあらわれている。政治権力者自身が、西洋文明に学ぶ必要があることを痛感していた。

それより早く、江戸幕府の遣米使節および遣欧使節の随員として、二度にわたる欧米の視察旅行をした福沢諭吉が、明治初期に刊行した『学問のすゝめ』で説いたのも、洋学もしくは洋学ふうの学問のすすめであった。『学問のすゝめ』は売れに売れて、統計上、国民の十人に一人が買いためたことになるといえる。西洋への関心が政治的指導者や文化的指導者だけのものではなく、庶民にまで広く及んでいたことをものがたる事実である。

お手本のある近代化にとつてなにより必要なのは、②お手本となる西洋文明を効率よく消化・吸収する力である。福沢諭吉には、西洋崇拜の気風とともに、西洋文明の欠陥をも見おとさない冷静な目があったが、日本の近代化の流れのなかでは、短所を見すごさぬ目はむしろ例外というべく、お手本となる西洋文明を素直に拝受するというのが、文明開化の一般的な気風であった。お手本を学びとることが喫緊の急務だと考える人びとにとつて、お手本にも難があるかもしれないという考えはすわりのよいものではなかったのだ。お手本は完璧なものであつてほしい、と考えるのが、お手本に追いつこうと努力を重ねる人びとの人情というものであった。

いまかりに文明を三つの側面に——物質面・制度面・精神面の三つの側面に——わけて考えるものとする。そのとき、物質面と制度面については、お手本を拝受するという姿勢で西洋文明を消化・吸収できる可能性が小さくはない。たとえば、物の形をとる洋服や西洋料理や洋風建築や電話、汽車、ガス灯などは、輸入してもよし、国内生産してもよし、しかるべくしつらえて多くの人びとが利用すれば、それなりに消化・吸収できたと見なすことができるし、税制や通貨制度や内閣制度や議会制度についても、見よう見まねで形をととのえ、試行錯誤を重ねつつ b ウンウウしていくうちに、制度としてしだいに定着して行く。実際、そういうようにして、③日本の近代化は 1 面と 2 面においては時とともに長足の進歩を遂げてきた。いや、日本だけではない。日本のとを追うようにして、アジアや南アメリカやアフリカの諸国がそうした近代化の道をあゆむすがたを、わたしたちはいまなおあちこちに見ることが出来る。

が、④精神面の近代化にかんしては事情が少しく異なってくる。西洋の近代精神をお手本としてこれを消化・吸収しようとするその姿勢そのものが、西洋近代精神に反することだからだ。いいかえれば、西洋の近代精神は、お手本としてこれを消化・吸収しようとする接近のしかたをきびしくしりぞけるような、そういう精神なのだ。⑤お手本をもたないで生きていく、というのが、すなわち精神における近代化ということなのだ。逆にいえば、西洋精神がお手本として拝受されているかぎり、精神の近代化は 2 面と 3 面においても、お手本をもち、開国後、西洋文明の威力と魅力に c アットウされ、必死の思いでそれを追いかけてようとしていた⑥日本の知識人にとつても庶民にとつても、そうした精神の機微に思いをとどかせることはむずかしかった。とりあえず、お手本を誠実に学んでいけば精神面の近代化も進展していくと考えるか、精神面には蓋をして、お手本学びで着々と効果のある物質面、制度面での近代化を d 推し進めるかしか、かれらにはなかった。お手本のある近代化の、いうならば及び腰のそうした姿勢が、西洋の近代精神とそぐわない側面をもつことは、うすうす感じとられてはいたので、だからこそ、開きなほつてその姿勢をよしとする「和魂洋才」といった熟語がうまれたりもしたが、開きなほつておろろろるまいが、「洋魂」の理解の困難さはいささかも軽減されることはなかった。

お手本のある日本の近代化とちがって、西洋の近代化はお手本をもたない近代化であった。世界史の先頭を切って荒野に道を切りひらいていくような近代化であった。中世の十字軍の兵士たちからしてすでに、荒野に道を拓く気概が感じられるが、はつきりとした自覚をもって荒野に立ちむかつたのは、近世の大航海時代を華やかに彩る英雄たち——喜望峯に到着したバルトロメウ・ディアス、アメリカを発見したコロンブス、インド航路を発見したヴァスコ・ダ・ガマ、太平洋を発見したバルボア、世界周航を果たしたマジラン隊など——であった。十六世紀の後半、⑦種子島に鉄砲を伝えたポルトガル人や、キリスト教布教のため来日したイエズス会士フランシスコ・ザビエルなども、同じ流れを汲む人びとであった。大航海時代のヨーロッパ人の海外雄飛は、現地住民からすれば、暴行、傷害、略奪、殺戮をも辞さぬ植民地収奪という面を多分にふくむものだったが、ヨーロッパ人の一般的な意識にとつては、波瀾と冒険に満ちた英雄的な国家事業であり、経済活動であり、文化活動であった。

同じ冒険と開拓の意欲が自然にむけられるとき、そこにうまれてきたのが、たとえばコペルニクスの地動説であり、ケプラーの楕円軌道説であり、⑧ガリレイの慣性の法則であった。冒険や開拓が着実に成果をうみ、それを e 目のあたりにした人びとがあらたな意欲をもって荒野に立ちむかう、という動きが大きな流れとなつてあらわれる。それが西洋近代という時代であった。海外制覇や自然科学に限らない。社会のさまざまな動きのうちにも、芸術や宗教や学問のうちにも、冒険や開拓におもむく人びとはつきつきとあらわれた。

* 注 喫緊…さしせまつて大切なこと。
 拝受…受けることをへりくだつて言う語。
 機微…表面にあらわれない微妙な心の動き。
 和魂洋才…(明治以降「和魂漢才」をもじつてできた語) 日本固有の精神をもって西洋の学問・知識を学び取ること。
 気概…困難を積極的に乗り越えて行くこととする、強い気持。

(長谷川宏『新しいヘーゲル』講談社現代新書による)

問八 線⑥「日本の知識人にとつても庶民にとつても、そうした精神の機微に思いをよどかせることはむずかしかった。」とありますが、その理由として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、お手本を学びとろうと努力しながらも、お手本の中にある欠陥や短所を見おとさない冷静な目を持っていたから。
- イ、お手本を学びとろうと努力している人々にとつて、お手本は完璧なものであつてほしいと考えるのが人情だから。
- ウ、お手本を学びとろうと努力しながら、お手本の中にある欠陥や短所をおぎなつてお手本を完璧なものにしたから。
- エ、お手本を学びとろうと努力するうちに、お手本への理解が進んでお手本が完璧であることに気づいていったから。

問九 線⑦「種子島に鉄砲を伝えたポルトガル人」と部⑧「ガリレイ」とは、いずれも西洋の近代化への道を切りひらいた人間の例としてあげられていますが、それぞれどのような分野で活躍した人物ですか。最も適切なものを次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、国家事業
- イ、経済活動
- ウ、文化活動
- エ、海外制覇
- オ、自然科学

問十 本文の内容に従つて三つの段落に分けると第二段落の初めはどこになりますか。第二段落の最初の五字をそのまま抜き出して答えなさい。

問十一 本文の内容にもとづき、日本の近代化の特色と問題点を指摘し、その原因について八十字以上百字以内で説明しなさい。なお、説明するにあつては次の言葉を必ず用いること。

お手本 精神面 冒険や開拓

二 次の文章をよく読んで、あとの各問に答えなさい。

庭の片隅で野菜を作りはじめて一年になる。素人が農薬を使わずにやっていることなので、虫に①食べられるのが半分、人間の口に入るのが半分といったありさまだが、それでも十分満足している。ホーレン草もチンゲン菜もキャベツも、虫とaキョウソウで早め早めに収穫するため、スーパードではお目に掛かれない、若々しくて柔らかい野菜を食べることができると。

虫と言ってもその姿をはっきり確認できるケースは少なく、彼らの正体が何なのか、実はよく分からない。彼らは賢い。昼間は土の中に隠れ、夜、暗くなつてから這い出してA食事をしているらしい。I食べ頃をよく心得ている。まだちよつと早いかなあ、今週くらいが獲り頃かなあ、とBしてしていると、その間に必ず先を越される。結局、決断の遅れを後悔しつつ、穴だらけになつた虫たちの食べ残しを頂戴することになる。

朝、キャベツの葉にポツポツとくつついた彼らのフンを見つけると、思わず見入ってしまう。それらはとても小さいのに、きちんと形がそろい、一定の間隔を保っている。朝日が透けるほどに薄い黄緑色の上で、露に濡れた黒い粒が、生まれたての生き物のように光って見える。黄緑と黒の模様は、自分が眠っている間に畑で起こつた出来事の手帳を、そつと伝えてくれる。キャベツはただ悠然と大地に根を張り、虫たちは地中で息をひそめている。その静けさを乱さないよう心しながら、私は茎に包丁を当て、キャベツを収穫する。

自分で野菜を作つてみて一番驚いたのは、②本来駆除すべき虫たちがさほど憎くないということだった。以前はスーパードで買った野菜にナメクジを一匹見つけただけでギョツとしていたが、今は全く動じない。「上手に隠れてよくこんなところまでやつて来たなあ、お前」と、声を掛けてやりたくなるほどだ。むしろ逆に、同じ野菜の恵みを共有する仲間のようにさえ感じる。③齧られた跡やフンによつて、彼らと交流しているのだ。

今年の春は野菜だけではなく、無謀にも苺に挑戦し、惨敗した。④ちよつと交流にうつつを抜かしすぎたようだ。藪を敷き、ビニールを被せ、期待に胸をふくらませてみると、やがて可愛い白い花が次々と咲きはじめた。この時点では、丸々とした真っ赤な苺を頬張るイメージが出来上がっていた。熟れるのを待ちわびて、いよいよよとなつたその時、⑤自分の甘さを思い知らされた。

ナメクジなのかアリなのか、人間の目に触れない部分だけを見事に齧っている。手に取るとどれも、裏側がとんでもないことになっている。残念がるより何より、してやられた、という感じだ。

2 一個一個の造形美には目を見張るものがあつた。中心に向かって貫かれたb空洞の無、そこからのぞく白っぽい果肉と表面の赤味のコントラスト、小さな穴がつながり合い増殖しながら生み出す新たな曲線。そうしたものが、ただの苺を、独創的な彫刻作品にし

ていた。
かろうじて無事な、ほんのわずかの部分を口に含んでみた。頬張る、とはほど遠く、歯の間に挟まる **c テイド** だったが、それでも甘みだけは伝わってきた。

畑をやっていると、しゃがんでいる時間が長くなる。考えてみれば、以前はこんなふうには地面に視線を寄せることなどなかった。土で靴や洋服が汚れるのは嫌なことだったはずなのに、**⑥** 気が付けば、土の感触と匂いが大好きになっていた。

『沈黙の春』で有名なレイチェル・カーソンは、遺作『センス・オブ・ワンダー』の中で、「自然のいちばん繊細な手仕事は、小さなもののなかに見られます」と書いている。更に、その小さなものを見ようとすると時に訪れる、人間サイズの尺度の枠から解き放たれる喜びについても触れている。

自分を小さくすればするほど、無力になればなるほど、偉大な自然の営みに気付かされる。人間の **d ズノウ** だけでは決して作り出せない、ホーレン草やチンゲン菜やキャベツの不思議、**⑦** ナメクジやアリや青虫の賢明さに **⑧** 心打たれる。人間が編み出した道具である言葉の通じない世界にひととき身を置くと、自分が壮大な世界の一部として、その大きさの中に包まれているのだ、と実感できて安堵する。これこそまさに、レイチェル・カーソンの言う、人間サイズの尺度からの解放だろう。

3、ある朝、畑の様子がどこかおかしい。地面が踏み荒らされ、ちぎれた葉っぱが散らばっている。そして、昨日は確かにそこにあつたはずのキャベツが一個、完全に姿を消している。茎から外側の硬い葉まで跡形もない。我が家の飼い犬、ラブの **e 仕業** だった。一応周囲に網を張ってあったのだが、それを鼻で押し潰して弛ませ、地面との隙間から入り込んだようだ。虫とキャベツと人間、この共有の和に、彼も参加したかったらしい。もっとも彼の場合、共有ではなく独り占めだけだ。

(小川 洋子「葉あれば苦あり」毎日新聞掲載の文章による)

*注 コントラスト：取り合わせた二つのものの対照・対比。

問一 線 a く e のカタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで答えなさい。

a、キョウソウ b、空洞 c、テイド d、ズノウ e、仕業

問二 線①「食べられる」を言葉の役割に従って区切った場合、どのようになりますか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、食べられる
イ、食べられ
ウ、食べられる
エ、食べられ

問三 **A**、**B** に入る言葉を次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

【Aの選択肢】 ア、せつせと イ、もぐもぐと ウ、だらだらと エ、がつがつと
【Bの選択肢】 ア、おろおろ イ、ましまし ウ、ときどき エ、ぐずぐず

問四 **1** く **3** に入る言葉を次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア、つまり イ、しかし ウ、たとえば エ、さて オ、だから カ、しかも

問五 線②「本来駆除すべき虫たちがさほど憎くない。」とありますが、それは筆者にとって虫たちがどのような存在だからですか。本文中から十五字以内の表現を探し、そのまま抜き出して答えなさい。
(記号、句読点は一字と数える。以下の問題も同じ。)

問六——線③「齧られた跡やフンによって、彼らと交流しているのだ。」とありますが、「交流する」とは具体的にはどのようなものですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、囓られた跡やフンによって虫たちの行動を追いかけ助け合おうとしている。
- イ、囓られた跡やフンによって虫たちの様子を観察しながら研究を進めている。
- ウ、囓られた跡やフンによって虫たちの行動を知り正体を見きわめようとしている。
- エ、囓られた跡やフンによって虫たちの様子を想像しながら親しみを感じている。

問七——線④「ちよっと「交流」にうつつを抜かしすぎたようだ。」とありますが、この表現からは筆者のどのような思いがうかがわれますか。その「思い」を心の中の短いつづみやきとして表現している部分を本文中から探し、そのまま抜き出して答えなさい。

問八——線⑤「自分の甘さを思い知らされた。」とありますが、それはどのような事実によってですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、糞を敷き、ビニールを被せただけですませ、虫の駆除に取り組まなかったこと。
- イ、可愛い白い花を見て、丸々とした真っ赤な苺が育つはずだと思いきんだこと。
- ウ、苺が熟れるまで、目に見えない部分を虫が齧っていると気づかなかったこと。
- エ、内側を虫に齧られた苺が、思いもかけない造形美を作りだしていたこと。

問九——線⑥「気が付けば、土の感触と匂いが大好きになっていた。」とありますが、その理由として、次の文章が正しくなるようにA B にそれぞれ本文中から五字と八字の語句を抜き出して補いなさい。

自然の中にある	A (5字)	を見ようと	B (8字)
から解放されたから。		した時に	

問十——線⑦「ナメクジやアリや青虫の賢明さ」として適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、夜暗くなつてから食事をする。
- イ、栄養のある野菜を選んで食べる。
- ウ、野菜の食べ頃をよく心得ている。
- エ、すべて食べつくさずに残しておく。
- オ、スーパーの野菜でも食べることがある。

問十一——線⑧「心打たれる」とありますが、この表現は「・・する」という言葉に言いかえることができます。「・・」にあてはまる漢字二字を答えなさい。

問十二 次の(1)(2)は、本文中で比喩(たとえ)を用いて表現されています。それぞれのようなものによってたとえられているかを探し、五字以上十字以内で抜き出して答えなさい。

- (1) キャベツの葉についた虫たちのフン
- (2) 内側を虫に食い荒らされた苺